

1 避難所を開設するための準備

リーダーカード

役割	避難所の開設に必要な活動を行うチーム長を決定し、作業を指示します。
使うもの	<input type="checkbox"/> 役割カード（1-1安全確認チーム・1-2受付設置チーム・1-3区割りチーム・1-4トイレチーム） <input type="checkbox"/> 感染症対策セット（非接触型体温計・手指消毒液・マスク） <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> （参考資料）リーダーの指示順序
注意点	<input type="checkbox"/> 単独で作業にあたらせないでください。

チェック



1

避難所運営に協力してもらえる人員を確保します。確保したらまず、人員の中に体調不良者がいないか確認を行い、検温、マスクの着用、手指の消毒を行います。

チェック



2

安全確認、受付設置、区割り、トイレ確保の4つの活動を行うチーム長を指名し、役割カード（1-1安全確認チーム・1-2受付設置チーム・1-3区割りチーム・1-4トイレチーム）を渡します。また、作業にあたる人員を3名以上（チーム長を含む）確保させます。

チェック



3

まず、安全確認チームに、建物が避難所として使用可能か、安全確認作業を指示します。残りの人達には、体育館前での待機をお願いします。また、後から来る避難者にも体育館前で待機するよう呼びかけてもらいます。

チェック



4

安全確認チームのチーム長から、作業完了の報告を受けます。

使用可能

使用不可能

チェック



5

受付設置チーム、区割りチーム、トイレチームに、それぞれの作業を指示します。

以降の作業を中止し、建物を立入禁止にします。
避難者を次の避難所へ誘導します。
第四小学校

チェック



6

各チーム長から、作業完了の報告を受けます。
「2 避難者の受入れ」のリーダーカードに進みます。

ポイント



●少ない人員でうまく役割分担するためには

- 状況に応じて、リーダーを変更することができます。
- 人員が少なく、チーム編成が困難な場合は、複数のチームを兼任させます。
- 行政職員が居合わせた場合は、チームの一員として運営に携わります。
- 施設管理者が居合わせた場合は、施設に関する情報（備蓄品の保管状態や施設の使用可否）の確認を、協力して行います。

(参考資料) リーダーの指示順序

避難者を受け入れられるよう、避難所の安全性を確認し、建物の受入れ準備を行います。

避難所を開設するために必要な準備作業は、次のとおりです。

リーダーは、各作業チームのチーム長を決定し、役割カードを渡して、作業を指示します。各チーム長は、作業を実施する人を確保して活動を行い、リーダーに作業の進捗状況や完了を報告します。

【役割の移行】

避難所を開設するための準備



リーダーの指示順序

報告

①

1 安全確認チーム (3名以上)

会場	保管場所
●避難所安全確認チェック表	防災倉庫
●ヘルメットなど	北舎4階防災備蓄品保管室
●建物のカギ	自動解錠装置付キーボックス

建物の安全が確認できたら、次の作業を指示します。

作業する人員を確保できれば、複数の作業を同時に指示します。

2 受付設置チーム (3名以上)

報告

必要なもの	保管場所
●机・椅子	体育館控室(下手側)・ステージ下
●避難者受付セット	防災倉庫
●感染症対策セット	体育館放送室

3 区割りチーム (3名以上)

報告

必要なもの	保管場所
●避難所区割りセット	防災倉庫
●手指消毒液	北舎4階防災備蓄品保管室・体育館放送室
●フロアシート	体育館ステージ下

4 トイレチーム (3名以上)

報告

必要なもの	保管場所
●トイレ応急対策セット	北舎4階防災備蓄品保管室
●手指消毒液	北舎4階防災備蓄品保管室・体育館放送室

②

1-1

避難所の安全確認

安全確認チーム
カード

役割	建物が避難所として使用可能か、安全を確認します。	3名以上
使うもの	<input type="checkbox"/> 建物のカギの入手方法 <input type="checkbox"/> 避難所安全確認チェック表 <input type="checkbox"/> ヘルメット・拡声器・懐中電灯（夜間の場合）・ロープ <input type="checkbox"/> 張り紙（立入禁止など）・コピー用紙・ペン・テープ	
注意点	<input type="checkbox"/> ご自身の安全を最優先に作業を行ってください。 <input type="checkbox"/> 点検する際には、複数の作業人員を指名し、チームを作ってください。 <input type="checkbox"/> 作業時には、ヘルメットを着用してください。 <input type="checkbox"/> 建物の安全確認を終えるまで、建物内部に避難者を立ち入らせないでください。 <input type="checkbox"/> 建築士など、専門の資格を持った方がいたら、協力を呼びかけましょう。	

チェック



1

「建物のカギの入手方法」に基づきカギを入手した後、「避難所安全確認チェック表」を使って、避難所として使用可能か、建物の外観や周辺環境を確認します。

使用可能

使用不可能

以降の作業を中止し
リーダーに報告します。

チェック



2

「避難所安全確認チェック表」を使って建物の内部を確認します。

「避難所安全確認
チェック表」で全て
「ない」にチェック
が入った場合

「避難所安全確認
チェック表」で全て
「ない」にチェック
が入ったが一部落下
物などで危険な場所
がある場合

「避難所安全確認
チェック表」で
「ある」にチェッ
クが入った場合

【使用可能】

【部分使用可能】
使用不可能と判断した場所は、
立入禁止にし、ロープや張り
紙などで明示していきます。

【使用不可能】
以降の作業を中止し、
リーダーに報告します。

チェック



3

事前に指定した場所に立入禁止の張り紙をします。

チェック



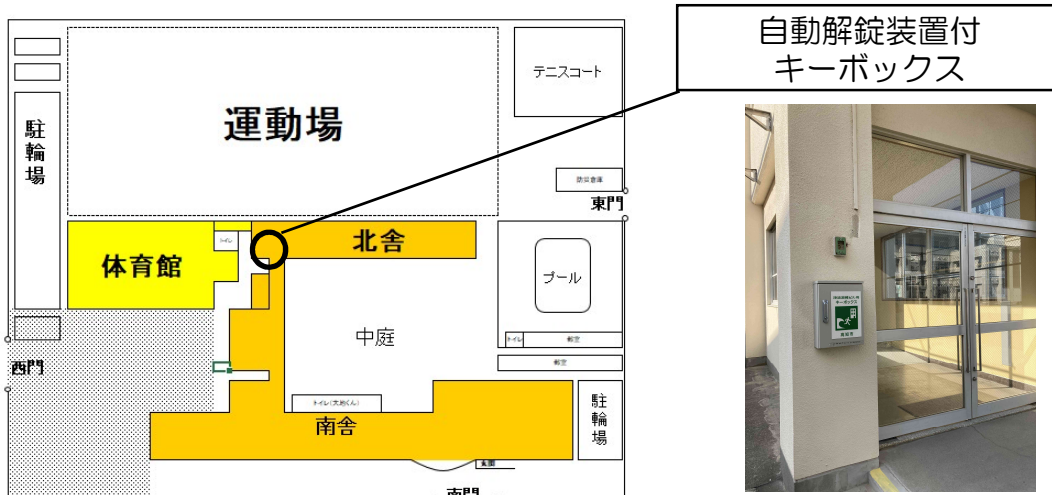
4

チーム長は点検結果をリーダーに報告します。

建物のカギの入手方法

1

自動解錠装置付キーボックス（震度5弱で自動解錠）からカギを入手します。



2

カギを開けます。



●キーボックス内のカギ

- ①北舎入口
- ②階段仕切り扉（北舎1階）
- ③体育館入口
- ④プール入口
- ⑤防災倉庫
- ⑥西北門南京錠

注意点

下記の順で、学校施設を開放してください。非常事態（大規模災害）の場合でも、校長室や職員室などは使用禁止とします。

1

発災当初は津波避難のために、上記①②の鍵を使い、避難者を北舎4Fへ誘導します。4Fに津波避難者を収容しきれない場合は、津波による浸水の状況を見て、4F→3F→2Fの順に避難者を収容します。

2

大津波警報解除後、避難所の安全を確認して避難所を体育館と校舎に開設します。体育館だけでは一般の居住スペースが不足する場合は、南舎（一部教室を除く）に収容します。

避難所安全確認チェック表

余震などによる二次災害を防ぐため、開設前に施設の応急的な安全確認を行います。

※施設に危険を感じる場合は、避難所としての使用を控えてください。

※確認者の安全を第一とし、明らかに危険な場合は、実施しないでください。

※施設の安全が確認できるまでは、避難者を建物内に立ち入らせず、駐車場などで待機させましょう。

① 建物の外観や周辺環境に関する確認

1	隣接する建物が傾き、避難所に倒れ込む危険があるか。	ある	ない
2	周辺で地滑り、崖崩れ、液状化、地盤沈下があったか。	ある	ない
3	建物の基礎が壊れていないか。	ある	ない
4	建物自体の傾きがみられないか。	ある	ない
5	外壁が落下したり、大きな亀裂が入ったりしていないか。	ある	ない
6	骨組みが壊れたり変形したりしていないか。	ある	ない
7	1～6以外に、危険性を強く感じる点がないか。	ある	ない

※「ある」に1つでも○がある場合は、避難所として活用できません。
速やかに建物から離れ、事前に決めた優先順位に基づいて、次の避難所へ移動します。

※全て「ない」なら、
②建物内部の確認へ進みます。

② 建物内部における確認

8	床が大きくゆがんだり、割れたりしていないか。	ある	ない
9	柱が折れたり、割れたりしていないか。	ある	ない
10	内壁に大きなひび割れがあったり、崩れ落ちたりしていないか。	ある	ない
11	ゆがんで開閉できないドアが複数箇所ないか。	ある	ない
12	天井の落下がないか。	ある	ない

※「ある」に1つでも○がある場合は、避難所として活用できません。
速やかに建物から離れ、事前に決めた優先順位に基づいて、次の避難所へ移動します。

※全て「ない」なら、避難所として活用可能です。

※これらのチェック項目はあくまで応急的な確認を行うためのもので、安全を保証するものではありません。

※これらのチェック項目で使用可能となった場合も、災害対策本部に要請し、できるだけ早期に応急危険度判定士による判定を実施しましょう。

※避難所開設時点で安全であっても、その後の余震等によって状況が変化するため、適宜再確認を行いましょう。

避難所安全確認のポイント（損傷程度の事例）

建物が以下の写真のような状況にあれば危険と判断します。

○窓ガラスの割れ、サッシのゆがみなど
広範囲で危険性を感じる。



1)

○柱の亀裂や破損、接合部の破損



2)

○外壁や柱の傾斜、破損



3)



3)

○ガラスや照明、天井材のズレ、落下



3)

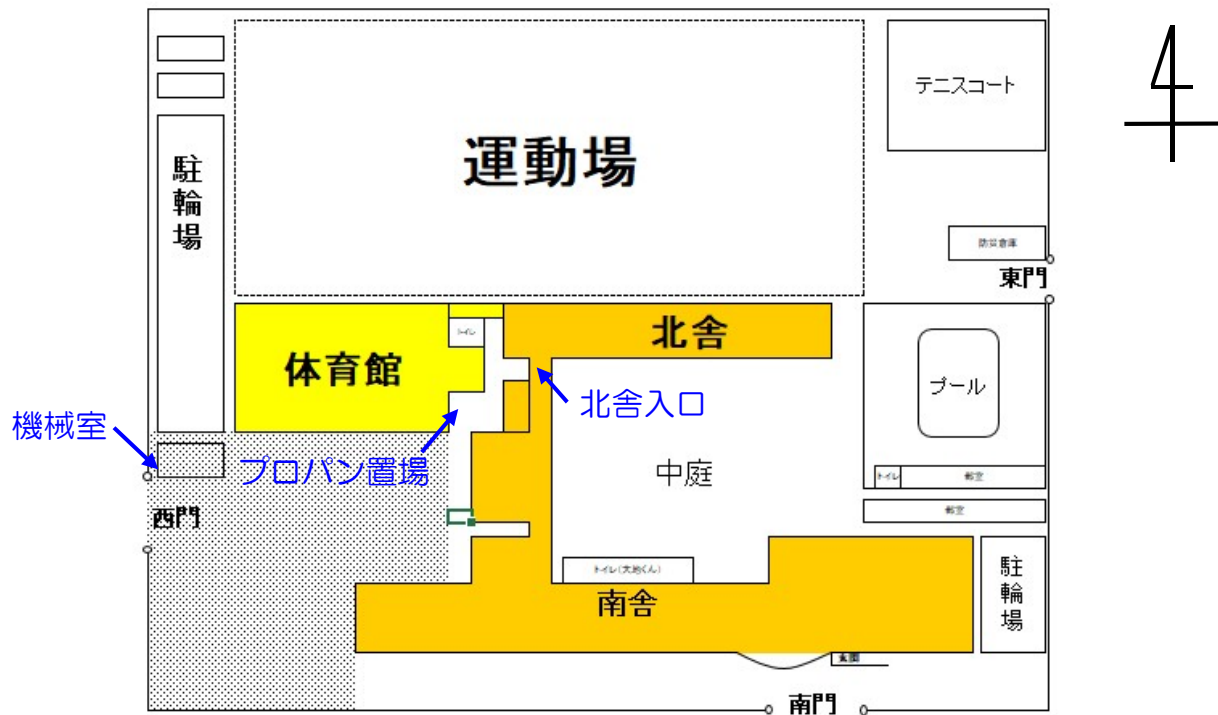
○内壁の大きなひび割れ、崩れ落ち



4)

- 出典：1) 高知県住宅課
2) (株) 第一コンサルタンツ
3) 災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料（損傷程度の例示）
平成26年3月 内閣府（防災担当）
4) 新潟県小千谷市提供

避難所安全確認のポイント（敷地内）



■チェックポイント



①外壁の落下、窓ガラスの割れはないか確認（施設全体を確認）

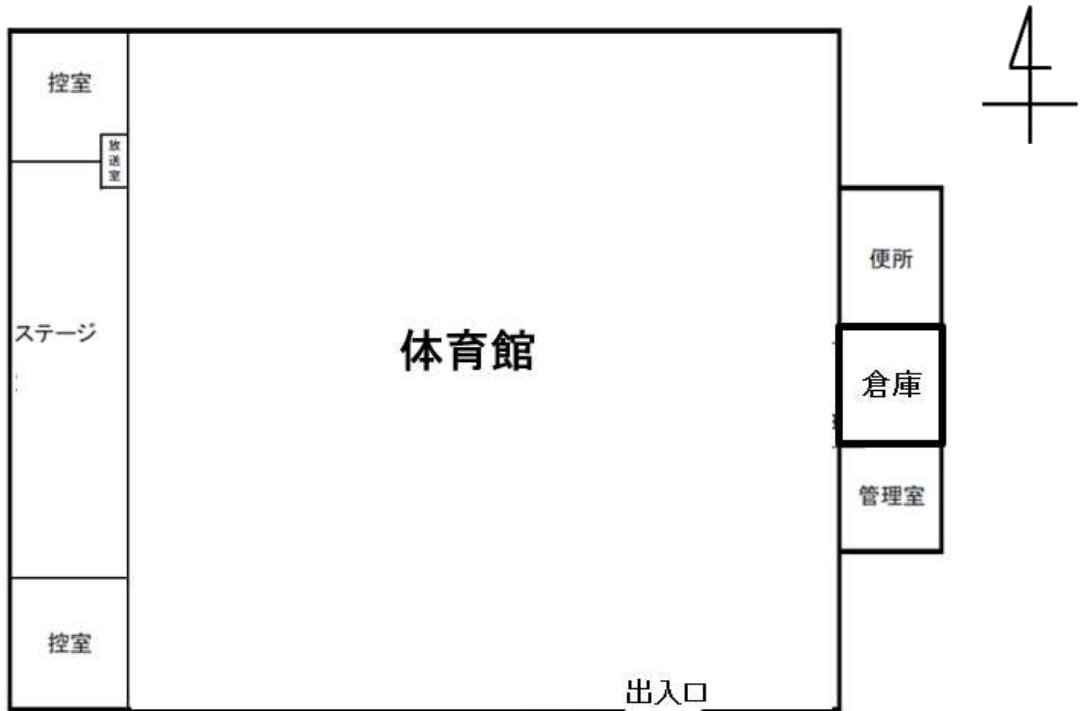


②機械室：漏電していないか確認



③プロパン置場：転倒していないか、
ガス臭くないか確認

避難所安全確認のポイント（体育館内）



■チェックポイント



①外壁の落下、窓ガラスの割れはないか確認（施設全体を確認）

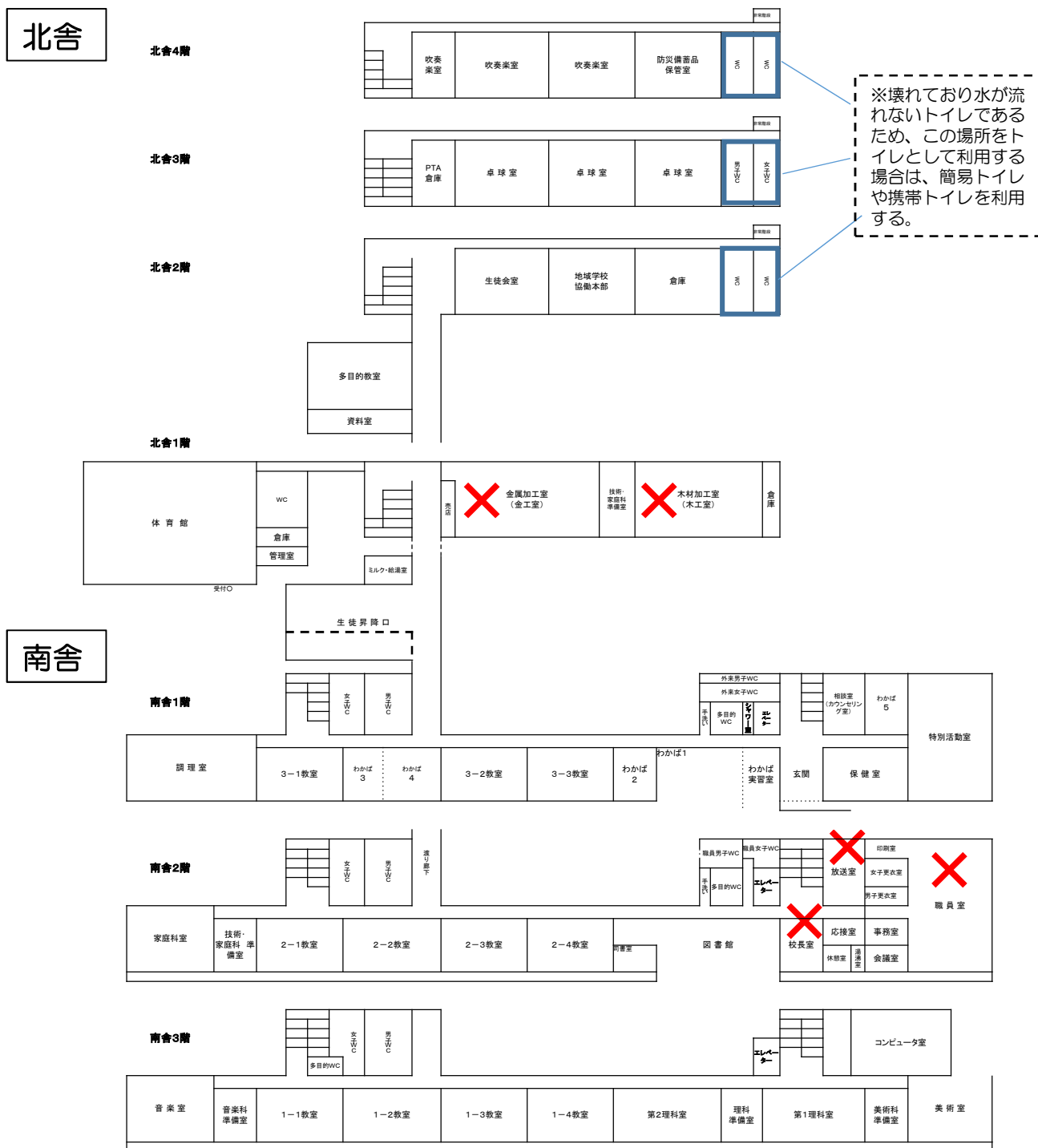


②天井：照明などの落下物がないか確認

避難所安全確認のポイント（校舎内）

×：事前に指定する立入禁止箇所

※校舎内については、建物の解錠ができ次第、事前に指定する立入禁止箇所に貼り紙をしていきます。



避難所安全確認のポイント（校舎内）

■チェックポイント



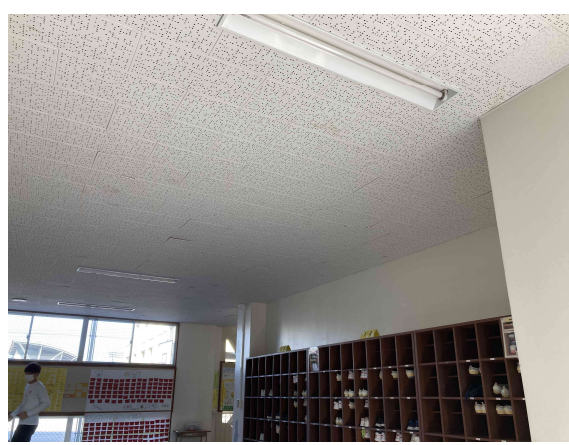
①昇降口：窓ガラスに割れはないか確認



②家庭科室：火災は発生していないか、
異臭はしていないか確認



③理科準備室：薬品の異臭はないか確認



④天井：照明などの落下物がないか確認

1-2

受付の設置

受付設置チーム
カード

役割	受付を設置します。	3名以上
使うもの	<input type="checkbox"/> 机・椅子 <input type="checkbox"/> 靴袋（ビニール袋） <input type="checkbox"/> 避難者受付セット（避難者カード・筆記用具・懐中電灯・避難者名簿など） <input type="checkbox"/> 感染症対策セット（非接触型体温計・手指消毒液・マスク）	
注意点	<input type="checkbox"/> 避難者が必ず受付を通るよう工夫してください。	

チェック



1

避難所の安全確認が完了した後、リーダーから受付の設置の指示を受けます。

チェック



2

体育館入口に机と椅子を並べて、一般避難者用と要配慮者用の受付をそれぞれ設置します。
紙と筆記用具で受付の表示をします。

チェック



3

受付で使用する避難者名簿、非接触型体温計、手指消毒液とマスクを準備します。
配布する避難者カード、筆記用具を準備します。

チェック



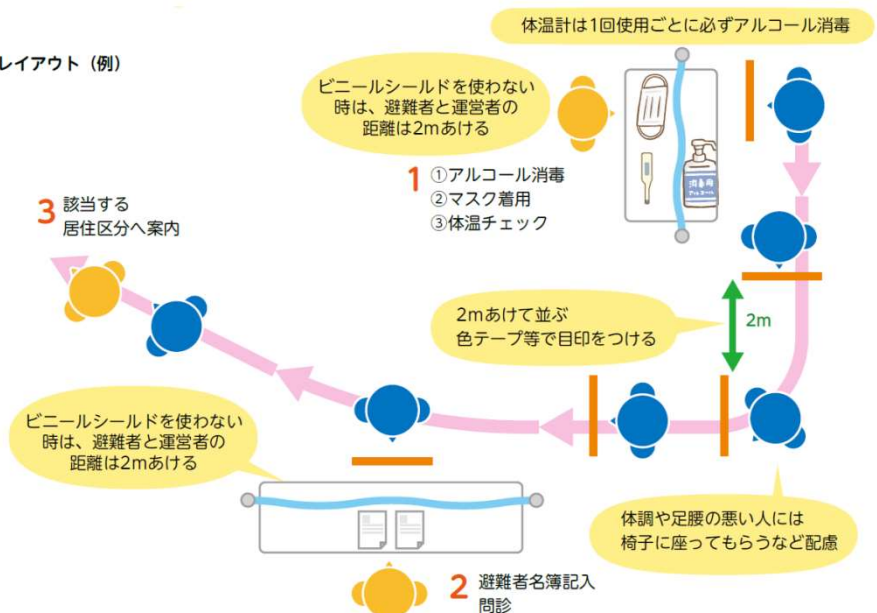
4

チーム長は、受付の設置が完了したことをリーダーに報告します。

受付レイアウト（例）

一般避難者用受付は、下記の地区ごとに4つ窓口を作り、各窓口には2人ずつ受付係を配置しましょう。

- ①上町・升形・北奉公人町
- ②西町（山ノ端町）
- ③大膳町・越前町
- ④他地域



【引用文献】

認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）（2020）、「新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック第2版」、p.11

1-3

避難所の区割り

区割りチーム
カード

役割

避難所に、通路や地区別の居住スペースなどを指定し、スムーズな受入れができるよう、避難所の区割りを行います。

3名以上

使うもの

 避難所区割りセット（カラーコーン・地区名・メジャーなど）
 フロアシート 手指消毒液 要配慮者用資機材 配置計画図

注意点

 配置計画図のとおり区割りができない場合は、臨機応変に対応してください。

チェック



1

避難所の安全確認が完了した後、リーダーから避難所の区割りの開始指示を受けます。人員が足りないと感じた場合は、避難者の中から協力者を確保して作業を手伝ってもらいます。

チェック



2

体育館のステージ下収納から、必要なもの（フロアシートなど）を出します。



区割りイメージ図

フロアシート



体育館のステージ下収納

チェック



3

事前に検討した配置計画図に基づき、フロアシートなどを用いて通路を確保するなどし、区割りを行います。

チェック



4

配置計画図に基づき、居住スペース、要配慮者スペースやその他のスペースの表示を行います。

チェック



5

主要な居住スペースの入口などに手指消毒液を設置します。
要配慮者用資機材を要配慮者スペースに設置します。
間仕切りや段ボールベッドを体調不良者スペースに設置します。

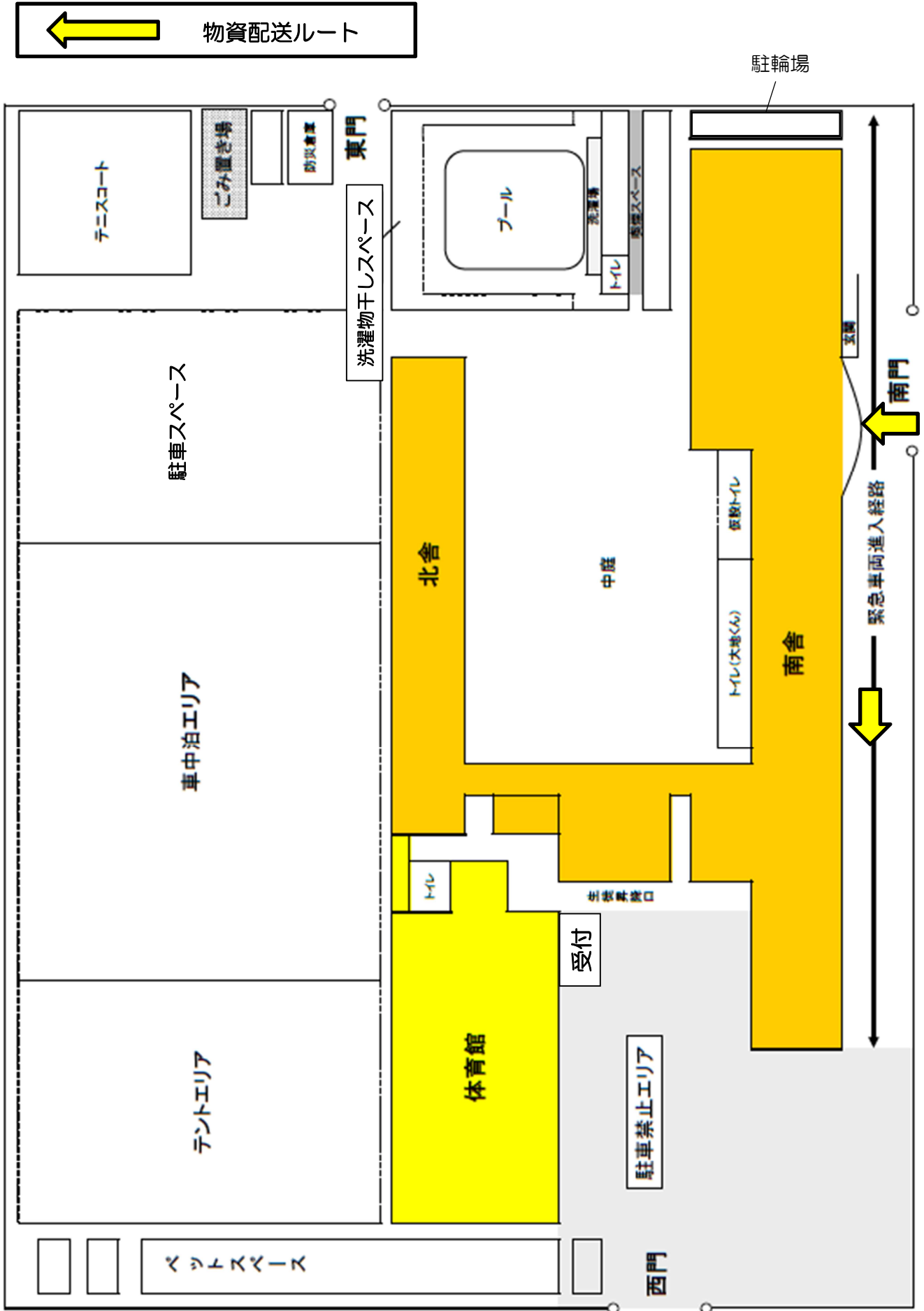
チェック



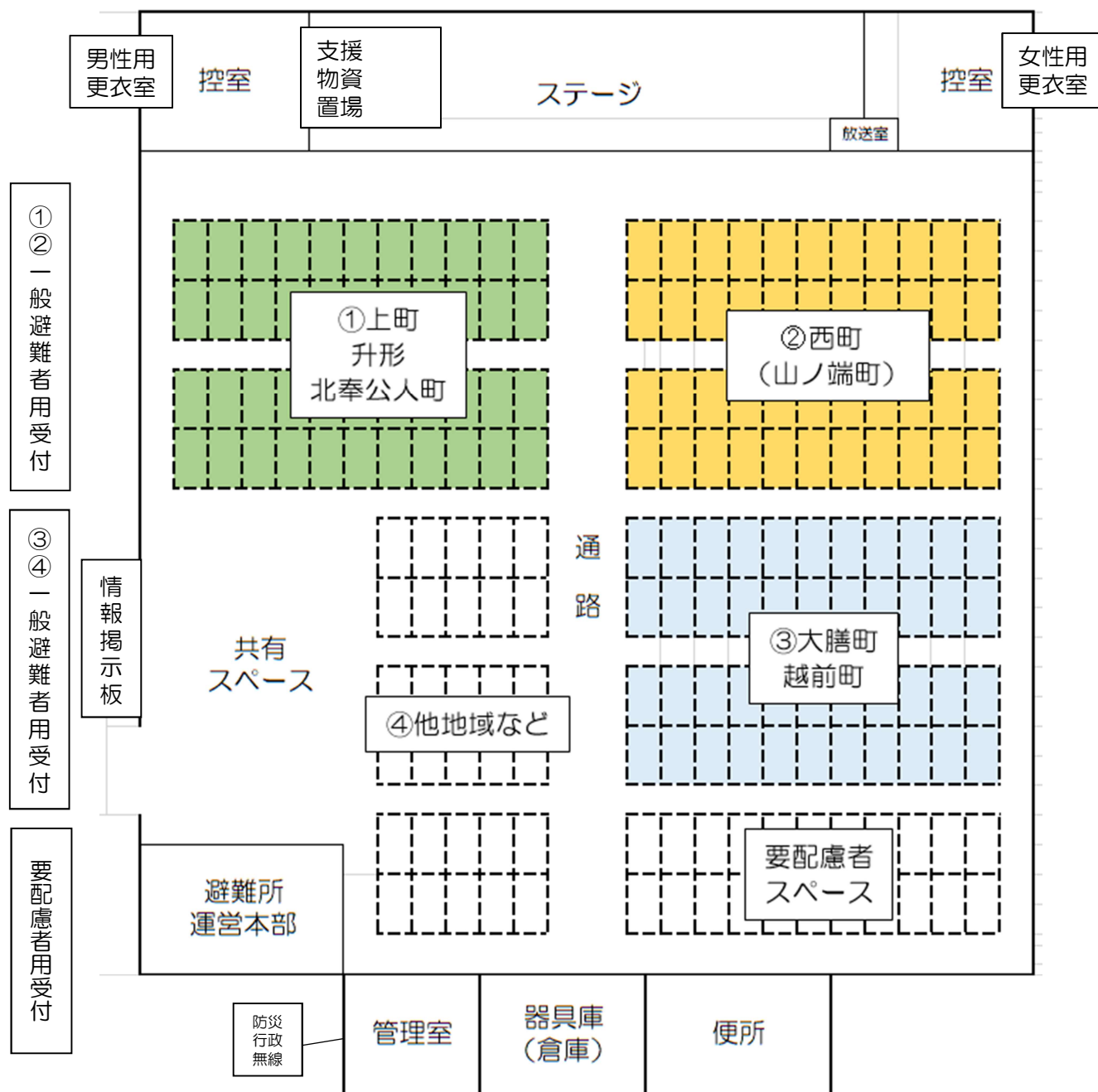
6

施設内の区割りが完了したら、チーム長はリーダーに報告します。

配置計画図（敷地内図面）



配置計画図（体育館）



ポイント①

フロアシートやコーンなど体育館にあるものを使って、スペース表示を行いましょう。



ポイント②

居住スペースの通路は、最低限車椅子が通れる幅を確保するようにしましょう。

感染症対策の考え方

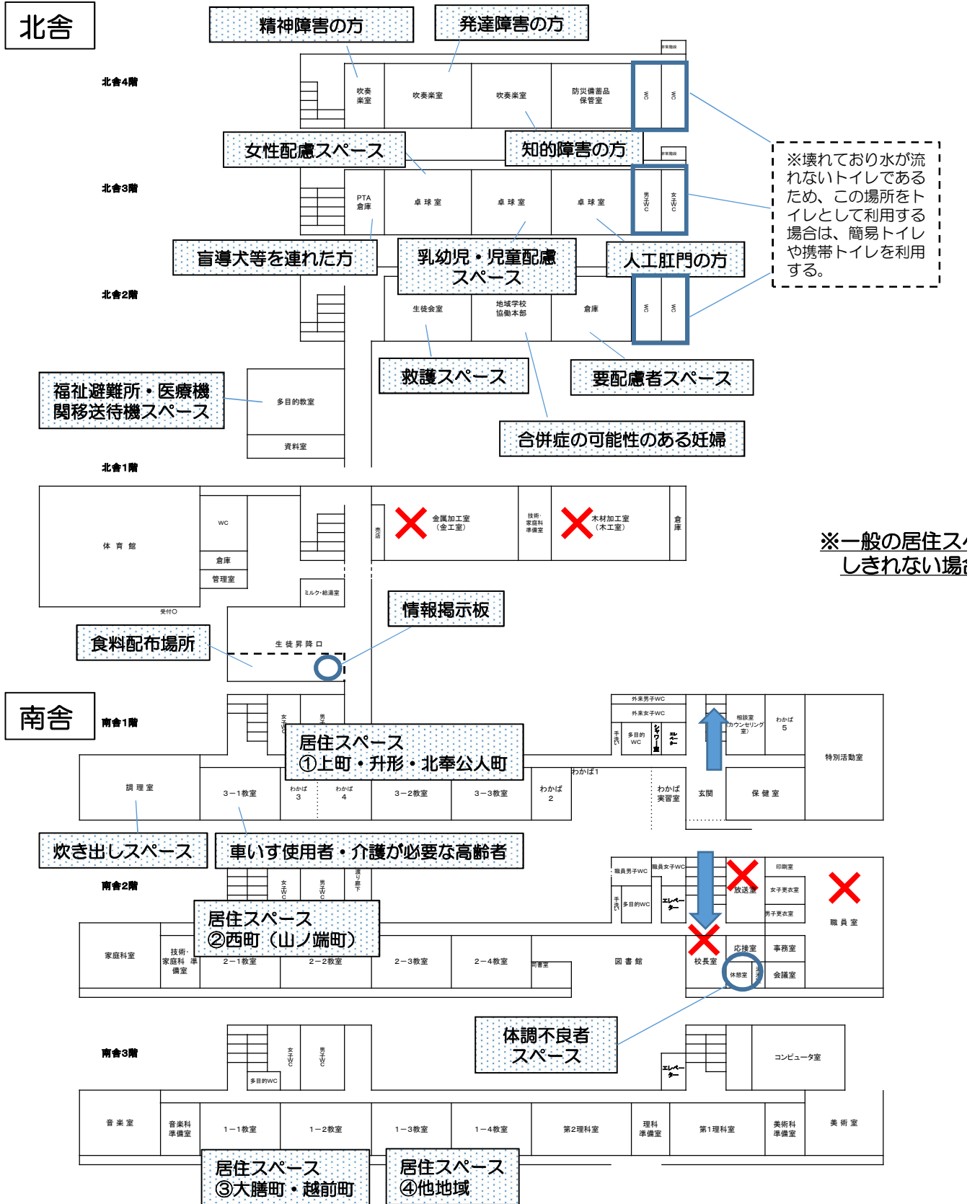
- 発熱など体調不良者（付添人を含む）の居住スペースとそれ以外の避難者の居住スペースを区分し、各スペース間の往来を禁止するように呼び掛けましょう。（事前に施設管理者などと協議し、スペースについて検討しておきましょう。）
- 居住スペースでは、感染症拡大防止のため、各世帯同士の距離を2m以上開けてもらうように努めましょう。
- 体調不良者の居住スペースでは、避難者同士の距離を2m以上開けることに加えて、段ボール間仕切りなどを用い、個別スペースを確保しましょう。

大規模災害時にすべての項目を実施するのは困難ですが、可能な限り対応しましょう。

配置計画図（校舎内）

✖：事前に指定する立入禁止箇所

←：体調不良者動線



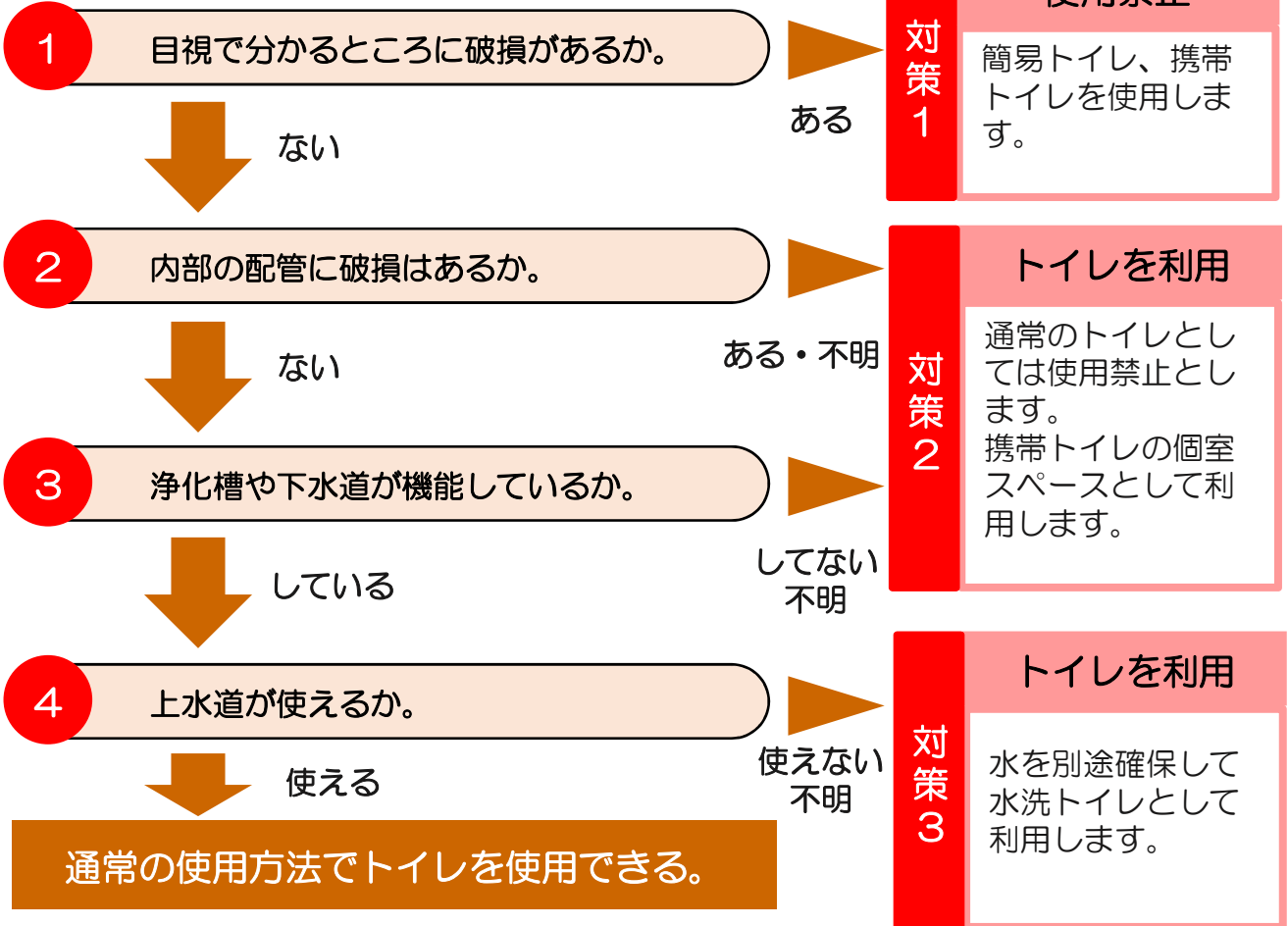
1-4

トイレの確保

トイレチーム
カード

役割	既設トイレの状況確認、使用禁止の周知、簡易トイレの設置を行います。	3名以上
使うもの	<input type="checkbox"/> トイレ応急対策セット（簡易トイレ・簡易テント・携帯トイレなど） <input type="checkbox"/> 手指消毒液 <input type="checkbox"/> 張り紙用紙・ペン・テープなど 【保管場所】 北舎4階防災備蓄品保管室 体育館放送室	
注意点	<input type="checkbox"/> 既設トイレが使用できない場合や状況が不明の場合は、早急に使用禁止を周知します。 （→ 基本的に水は流せないものとして対応）	

●確認する流れ



※施設内のトイレで足りない場合などは、屋外仮設トイレスペースに簡易トイレを設営します。



簡易トイレ



簡易テント



携帯トイレ

【ポイント】 車椅子利用者などに対応したトイレ設備がある場合は、使用できるか確認し、要配慮者用トイレとして利用しましょう。

トイレ 応急対策方法

対策1

簡易トイレ、携帯トイレを使用します。
(目視で分かるところに破損がある場合)

- 1 既設トイレには、下記の張り紙とバリケードで立入禁止にします。
可能であれば、既存のトイレの止水栓を閉めておきます。

立入禁止

**このトイレは
使用できません。**



簡易トイレ・簡易テントの
設置イメージ

- 2 屋外に簡易トイレや携帯トイレなどを設置します。
※簡易トイレや携帯トイレを用いる場合は、
簡易テントなどを利用して、プライバシー
を保護するスペースを確保します。
※男女別に分けて使用できるようにします。
※体調不良者とその他の方が使用するトイレを分けます。
※トイレの出入口に手指消毒液を設置します。
※簡易テントは、風で飛ばないように重さのあるもので固定します。

○簡易トイレや携帯トイレのイメージ

簡易トイレ



携帯トイレ



○仮設トイレのイメージ

仮設トイレを設置する場合は、
汚物の回収や水の調達が容易
なところを選定します。



【ポイント】
要配慮者スペースにトイレを
設置しましょう。



トイレ 応急対策方法

対策2

通常のトイレとしては使用禁止にします。
(内部配管に破損があるまたは不明・浄化槽が機能しない場合)

配管の状況が確認できないため、水を流すことは禁止とします。

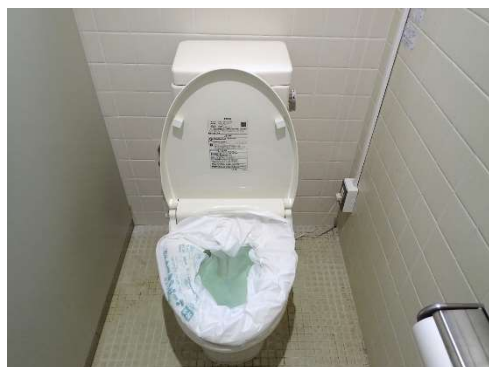
※体調不良者とその他の方が使用するトイレを分けます。

※トイレの出入口に手指消毒液を設置します。

① 携帯トイレ（ビニール袋と凝固剤）を配置します。

② 携帯トイレを捨てるゴミ袋を設置します。

※使用方法イメージ



③ 次の内容の張り紙を掲示します。

このトイレは水を流せません。

○使用後は、漏れないように結んでゴミ袋に捨ててください。

○トイレを使用した際に、ゴミ袋がいっぱいになった場合は、可燃ごみとして、ゴミ置場へ持って行ってください。

携帯トイレの使い方

① 下のように配置。



② 結んでゴミ袋に捨てる。



(イメージ図)

【ポイント】車椅子利用者などに対応した既存のトイレ設備があり、使用可能な場合は、要配慮者用トイレとして利用しましょう。

ポイント



● トイレ用の凝固剤が手に入らない場合

- 紙おむつや細かく裂いた新聞紙をビニール袋の中に入れるなどしてにおいの発生を抑えます。
- ペット用のトイレ砂や消臭剤、乾燥したお茶がらなども消臭に効果があります。

トイレ 応急対策方法

対策3

水を別途確保して利用します。
(上水道が使えない場合)

1 バケツなどに水を準備します。

※水の運搬は重労働です。早いうちに作業分担を決めることが重要です。また、避難者にも随時協力を呼びかけます。

※やむを得ず、ティッシュペーパーなどの水に溶けない紙を使用する場合には、流さずにごみ袋などを用意して、それに捨てるようにします。

※トイレ用の水は、衛生面から手洗いなどには使用しないようにします。

※バケツなどの設置イメージ



※ごみ袋設置イメージ



2 次の内容の張り紙を掲示します。

このトイレは水が出ません。

(流すことはできません。)

○バケツなどに水を準備します。

○トイレ用の水は、衛生面から、手洗いには使用しないでください。

○やむを得ず水に溶けない紙を使用する場合は、流さないで、別途準備してあるごみ袋に捨ててください。

○水が少なくなったら互いに協力して、水汲みをしてください。

【注意事項】

※体調不良者とその他の方が使用するトイレを分けます。

※トイレの出入口に手指消毒液を設置します。

トイレ 応急対策方法

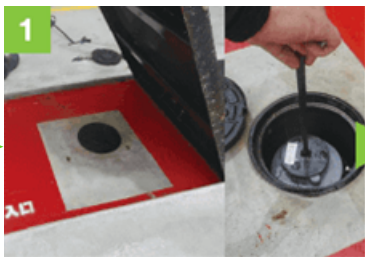
対策4

災害救援槽大地くんの組立て、設置を行う。

- ① 下記の手順にて、中庭で「大地くん」の設置を行ってください。



中庭に設置している
黒色の蓋を開け、中
から仮設トイレの設
置に必要な物（パー
テーション・便器等
）を取り出す。



1 トイレ設置場所の角蓋を外す。
便器設置場所のマンホール蓋、
内蓋を外す。



2 トイレBOXパネルを設置する。



3 屋根を載せる。



4 トイレを設置する。



設置完了イメージ



城西中学校生徒と災害救援槽大地くん